

令和 3 年度図書館事業実績評価

守谷中央図書館

令和 4 年 1 1 月

☐ 評価について

令和２年度実績に対し、令和３年度の図書館事業における実績評価を実施し、検証しました。

評価内容は、運営基本方針の実現に向けた活動計画の５項目における自己評価及び総括としました。

☐ 運営基本方針の実現に向けた活動計画

- １ 資料、情報提供の充実
- ２ 子どもの読書活動の推進
- ３ 市民協働によるサービスの充実
- ４ 多様なニーズに応えるサービスの提供
- ５ 信頼できる図書館運営

総 括

令和 3 年度の上半期は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、5 月には時間短縮による開館、また、8 月と 9 月は時間短縮による開館及び休館となりました。当初、中央図書館は 343 日の開館予定でしたが、実際には 295 日の開館となりました。しかしながら、休館中に中央図書館及び公民館図書室において、予約資料の受渡しを実施し、完全な休館を回避できたこと、また、9 月 27 日以降は当初の予定どおり開館できたため、全館の資料貸出点数、利用者数が前年度のおよそ 110%に向上しました。

学校図書館との連携においては、中学校向けブックパックの運用開始を始め、ブックトークの実施、学校司書による学習支援等に積極的に取り組みました。中央図書館から学校への団体貸出数は、中学校へのブックパック運用開始に伴い、前年度の 134%に、また、ブックパックを除いた団体貸出数においても、前年度の 118%に向上しました。

図書館実績評価には含まれない数値ではありますが、学校図書館における貸出数が、小・中学校共に前年度の 104.9%（約 9,000 冊）に向上しました。これは、学校及び学校図書館と中央図書館の連携が円滑に図られ、学校図書館の積極的な活用が根付いてきている結果と言えます。

その他、新たな取組の一つとして、茨城県立図書館が主催する事業に参加しました。「遠隔地貸出サービス（ぶっくびん）」への参加により、茨城県立図書館の資料を Web で予約し、中央図書館または各公民館図書室で受取り可能となりました。利用実績は 100 件で、需要の高さが感じられます。また、茨城県立図書館主催のオンライン講演会「ビリギャル小林さやか氏講演会」を同時配信し、18 人の参加がありました。

今後も、ボランティア、関係機関等との連携を図りながら、ウィズコロナにおける図書館サービスの充実に努めてまいります。

1 市民の求める図書や情報の収集, 提供, 保存

評価基準	R2年度実績	R3年度実績	前年比
図書資料数	432,307冊	425,559冊	↓
視聴覚資料数	18,970点	18,280点	↓
雑誌タイトル数	331タイトル	327タイトル	↓
新聞タイトル数	32紙	31紙	↓
蔵書冊数（市民一人当たり）	※1 6.3冊 6.2冊	6.1冊	↓
資料回転率（図書）	※2 1.7回 1.8回	2.1回	↑
地域・行政資料の受入冊数	310冊	213冊	↓
寄贈資料受入冊数	1,020冊	642冊	↓
地域資料等のデジタル化（ADEAC作成件数）	1件	3件	↑
宅配サービス等登録者数	3人	3人	→
宅配サービス等貸出点数	239点	278点	↑
外国語資料の受入冊数	107冊	83冊	↓
レファレンス受付件数	8,053回	6,637回	↓
県立図書館, 県内公共図書館との相互貸借数	1,891冊	2,542冊	↑
国立国会図書館, 他県立図書館等との相互貸借数	208冊	262冊	↑

※1、2 数値が誤っていたため訂正しました

自己評価

- ・資料の購入と除籍を適切に実施し、図書館及び公民館図書室の蔵書構成を整備することに努めました。今年度は図書資料数、視聴覚資料数が減少していますが、購入資料の単価や除籍資料の量に影響を受けた結果となっています。
- ・蔵書数が減少したのに反し、総貸出数が増加したため、資料回転率（図書）は、2.1回に上昇しました。
- ・地域・行政資料の受入冊数が減少しましたが、通常期の受入冊数となっています。（令和2年度は休館が多く、資料のデータ作成等手間のかかる作業に、通常時よりも時間を費やすことができたため、通常よりもかなり高い実績値だった）
- ・ADEAC（デジタルアーカイブ）は、守谷市市制施行20周年記念事業により刊行された「守谷城と下総相馬氏」及び「古老に聞いた守谷の昔の話」「守谷町都市計画図」の3タイトルを追加しました。「古老に聞いた守谷の昔の話」において、文字データと共に古老の方々の生の声を一部収録し、守谷の歴史を目と耳で楽しむことができるタイトルになりました。
- ・相互貸借は、県内、県外公共図書館ともに活発に行いました。

2 未来を担う子どもたちの読書活動の推進と、学習活動の支援

評価基準	R2年度実績		前年比
読み聞かせや本に関する講座・講演会の実施	0回	0回	→
子ども向け行事開催数	11回	15回	↗
子ども向けの資料案内の作成数	11件	11件	→
図書館職員（スタッフ）によるおはなし会の実施回数	7回	5回	↘
ボランティアによるおはなし会の実施回数	35回	56回	↗
学校への団体貸出冊数	4,388冊	5,884冊	↗
学校図書館（相互利用）への貸出冊数	41冊	103冊	↗
ブックトークの実施数	25回	24回	↘

自己評価

【子どもの読書活動の推進】

- ・子ども向け行事開催数が昨年度より4回増加しました。中でも、展示会「絵本で知る世界の国々～IFLAからのおくりもの」においては、新聞記事掲載の効果もあり、多くの方に世界の素晴らしい絵本を手にとって楽しんでいただくことができました。
- ・昨年度に引続き、守谷市教育委員会教育指導課と連携し、守谷市に勤務するALTによる英語のおはなし会を開催しました。また、国際交流員の協力によりドイツ語のおはなし会を開催しました。子どもたちが外国語の響きを楽しみ、国際理解を深める機会を提供することができました。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、一時的に活動を自粛及び休止していたボランティアが活動を再開したことに伴い、おはなし会の開催回数は昨年の1.6倍に増加しました。ボランティアの活動再開により、図書館職員（スタッフ）によるおはなし会は、通常どおりの回数に戻しました。（当初6回を予定していたが、8月の該当日に休館となり、年間5回実施）

【中央図書館との連携による学校図書館の充実】

- ・学級文庫の充実や授業以外にクラス単位で使用する資料の提供等に対応することを目的として、5月から中学校へのブックパックの運用を開始しました。司書おすすめの本だけでなく、中学生の将来の選択の一助となるよう、様々なジャンルの本を選定しました。
- ・学校への団体貸出数は、中学校へのブックパックの運用開始に伴い、前年度4,388冊に対し令和3年度は5,884冊で、前年度の134%になりました。ブックトークの実施数は、前年度を1回下回りましたが、感染拡大の状況によって、Zoomを使ってオンラインで行った際には、ブックトークとともに、図書館内の案内なども行う新たな取組を実施しました。

3 市民との協働により、市民が集い、学び、活躍できる場の整備

評価基準	R2年度実績	R3年度実績	前年比
図書館ボランティア登録数	22団体	19団体	↓
ボランティアとの協働事業実施回数	5回	7回	↑
おはなしボランティア養成講座及び研修等の実施回数	0回	0回	→
図書館ボランティア連絡会開催回数	書面	0回	↓
一般向け講演会、講座等の実施回数	1回	1回	→
展示会の開催回数	10回	9回	↓

自己評価

・令和元年度以降、図書館におけるボランティア活動実績のなかった3団体を減数し、19団体としました。

・前年度に引続き、集客数の多いイベントの開催自粛を継続したため、講座等の開催回数は昨年同数となりました。

・協働事業においては、2年ぶりに「守谷の図書館を考える会」による手袋の人形づくり、シェアハウス学生によるビブリオバトルを新規開催し、全体で7回の実施となりました。

・展示会においては、ボランティア、市民等との協働により、市内で活躍するサークルのフォトクラブ写遊、守谷平和の会による展示、守谷ひなまつり実行委員会による「第10回守谷ひなまつり」を実施しました。また、秘書課による「聖火ランナー紹介パネル展示」、社会福祉課による「障がい者週間展示」が実施され、展示内容に関連する資料と一緒に展示・貸出したり、一般フロア内にテーマ棚を設定して資料を展示・貸出を実施しました。

4 多様な利用者ニーズに応えるサービスの提供

評価基準	R2年度実績	R3年度実績	前年比
開館日数	275日	295日	↗
新規登録者数	1,179人	1,319人	↗
来館者数	180,781人	201,155人	↗
貸出点数（全館 個人）	856,382点	964,363点	↗
貸出利用者数	195,464人	223,358人	↗
市民一人当たり貸出数	12.4冊	13.8冊	↗
予約・リクエスト受付件数	209,015件	278,661件	↗
団体貸出数（学校以外）	3,753冊	4,329冊	↗
インターネット端末利用回数	271回	303回	↗
電子図書館閲覧数	6,171件	6,563件	↗
ナクス・ミュージックライブラリー ログイン回数	2,244回	2,221回	↘
育児コンシェルジュ利用数（利用項目合計）	1,286回	1,130回	↘
読書応援タイム（託児サービス）利用数	191人	178人	↘
書籍消毒機利用回数（全館合計） ※1	※1 —22,909回— 32,466回	32,249回	↘

※1 中央図書館のみの数値を全館合計に訂正しました

自己評価

・開館日数、新規登録者数、貸出点数（全館）、貸出利用者数などの利用に関する数値が、前年度のおよそ1.1倍に向上しました。

・予約・リクエストの大幅な増加は、休館中に図書館及びすべての公民館図書室において、予約資料の受渡しを実施したことによるものです。通常は図書館や公民館図書室に来館し、本を手にとって選ぶことができますが、休館中は予約していただいた本のみを貸出したため、このような数値となりました。

・電子図書館の実証実験に参加し、期間限定ではありましたが、電子雑誌を提供しました。

・育児コンシェルジュサービス、読書応援タイムともに数値が減少しましたが、育児コンシェルジュによる工作会を実施したり、サービスを周知する案内を掲示するなど、新規利用者の開拓のため積極的に活動しました。また、育児コンシェルジュによる館内装飾が好評であり、特におはなしのへやに掲示している童謡の壁飾りを見て、家族で童謡を歌う微笑ましい場面も見られました。

5 快適で信頼できるサービスの提供

評価基準	R2年度実績	R3年度実績	前年比
常勤職員に占める有資格者数（司書）	77.8%	83.3%	↗
司書資格新規取得者数	1人	1人	→
研修への参加回数	5回	15回	↗
研修の受講者数	14人	23人	↗
図書館協議会開催数	書面開催2回	3回	↗

自己評価

・会計年度任用職員1名が新たに司書資格を取得したことに伴い、常勤職員に占める有資格者数（司書）が前年度を上回りました。

・オンライン開催による研修会が増加したことにより、研修参加が容易になったため、これまで以上に積極的に参加し、必要に応じて会計年度も参加させ、職員全体のスキルアップに努めました。

・図書館協議会は、対面で2の回の会議及び茨城県立図書館への視察研修を実施しました。館内の一部を改修して新規にカフェを併設し、新たな図書館利用の推進にも力を入れている県立図書館における成果や課題について研修しました。

・令和4年1月15日（土）～2月14日（月）の期間、「守谷中央図書館の利用に関するアンケート」を実施しました。総合評価において、満足が全体の67%以上、満足と普通の合計で98%以上であり、サービス全般においておおむね満足いただけている結果となりました。前年度と比較すると、満足が7ポイント、満足と普通の合計が2ポイント上昇しました。